

水の危機

★ABSTRACT★

いま世界では、人間の自由奔放な破壊的活動により、様々な影響が現れ始めている。その中でも水の問題は私たちの生活に直結する重要なものである。まず、一人当たりの水使用量を世界で比較する。するとやはり大きな差がでた。日本では、バケツ28杯すなわち約280リットル、アメリカでは、バケツ23杯すなわち約230杯、中国山西省では5杯、ケニアでは2杯であった。中国では、人口増加と経済成長による水不足が進んでいる。国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、2050年までにアフリカ南部などで水が10%—30%減り、氷河が解け、数億人が水不足に陥ると警告。ケニアで北部のロジピ湖では水位が減り、その様子ははっきりと目に見える。そのほかにもチャド湖は1960年代に比べ9割も縮小、ビクトリア湖の水位も90年代に比べ1メートルさがった。これは人口増加と気候変動によるものといわれている。また、中国内モンゴル自治区東部の通遼市を通る西遼河では、1999年以来、雨期を除いて水がほぼ流れなくなってしまった。中国各地で河の断流や河の量が減るということが増えている。また、水は思わぬところで大量に使われている。米や野菜を栽培、牛のえさの穀物を作るのに水を使う。食料生産に使った水をバーチャルウォーター（仮想水）という。仮想水が多い食材は肉だ。東京大学の沖大幹教授によると、鶏肉1キロに4.5トン、豚肉に6トン、牛肉に20トンの水が使われるそうだ。料理名でいうと、180リットルの風呂で換算、牛丼は10.5杯、ハンバーグ10.3杯、カレーライス6.1杯、ご飯（1杯）1.3杯。このように水は私たちの生活に欠かせないものだけでも、そんな水の危機に直面している。

★PROVISION★

中国では水不足対策として、洗濯で使った水をトイレに流したり、野菜を洗った水を観葉植物にあげたりしているという。沖教授によると、今すでに世界で11億人が飲み水不足で困っている。それは特に利用可能な水の少ないアフリカなどである。先進国は水の無駄遣いを減らすことが重要である。そうすれば、給排水設備を働かせるエネルギーを節約し、温室効果ガス排出を抑えることもできる。また、アフリカなど貯水や下水道処理施設の不備で深刻な水問題を抱えている国などに、日本などの先進国が水処理、節約技術、再生水の利用法などを提供すべきだ。

☆私たちに今できること☆

水の危機の原因は無駄遣いや地球温暖化による気候変動など様々である。そんな問題を今のうちに抑えていく必要がある。そこで、私たちが今できることを考えてみる。日常生活で気をつけられることは、風呂水で洗濯する、洗い物などの際こまめに蛇口をしめる、シャワーを出しっぱなしにしない、野菜を洗った水を植物に、米を洗った水で大根をゆでるとおいしくなるし節水に、肉を食べるのを控える、車に乗るより自転車に、電気をこまめに消す、このようなことなら少し気にしていれば簡単にできることである。また、少し技術的なことになるけれど、各家庭の雨水利用、ハイブリットカーを一般に、各家庭の太陽光発電を一般的にすること。それから、ちょっとした発想で、水道にメーターをつけて、今自分がどのくらいの量の水を出し、使っているのかを明らかにする。そうすれば自然と節水に対する意識が働くと思います。また、日本が圧倒的に水の使用量が多いということで私たちの危機感のなさを実感しました。日本では目にみえる影響がないし、日常生活で飲み水がなくて困るといったこともないから、意識がうすいのかなと思います。事実、温暖化の影響などは地球の破壊的活動をほとんどしていない発展途上国が真っ先に被害にあう。現在すでに起こっている。なぜそのような人々が被害にあい、私たち先進国が優雅に暮らしているのだろうか。先進国はもっと地球全体の被害、問題、さらに言えば自分の問題だと思って考えなくてはならない。結局、私たち人間の活動によるダメージは私たちに返ってくるのだから、私たちが意識をもって問題に向き合って解決するべきだと思います。

◎資料◎

読売新聞 2008年1月21日

2008年1月22日